

奥日光へ早い秋を探しに・・・ 切込湖・刈込湖

実施日 2015年9月5日(土)
天候 曇り時々晴れ
リーダー 遠井 謙策
参加者 涌井良明、小村井好枝、石附智江、遠井謙策、伊藤久雄、石原勝正、徳山敬子、滝澤きよの、清水久子、渡邊悦子 計10名
費用 私鉄 2,720円(浅草駅起算)、タクシー代 1,500円、バス代 1,700円
タイム 東武日光駅(9:30)光徳牧場(10:30)山王峠(11:30)涸沼(11:50~12:40)昼食切込湖・刈込湖(13:00~13:45)小峠(14:10)湯元温泉(14:40~16:50)東武日光駅(18:10)

日本列島が騒々しい。安保法案に揺れる国会、白紙撤回され千鳥足の新国立競技場建設、お粗末な公式エンブレム盗用疑惑が五輪開催不安に追い打ち。一時の株価高騰もバブルの再来だったとの懸念。自然界でも不気味な現象が。あちこちで蠢くマグマの胎動。記録づくめの猛暑かーっ！と思いきや一気の冷え込みと降雨での日照不足。そんな今年の夏が去ろうとしている。せめて我々冷静に実りの秋を迎えたい。

残暑を逃れ奥日光へ早い秋を見つけに行こうと計画した本山行だが、ここ10日ばかりの東京の涼しさは何だ。既にしっかりと「早すぎる秋」を皆体験してしまった。それでも、運良く雨雲の途切れた束の間、10人のハイカーが、緑まぶしい森と泉を巡ってきたので報告する。乗合ジャンボタクシー活用で、少し安く大分早くスタート地点の光徳牧場へ着いた。曇り空ながら時折り薄日が射すという絶好のコンディション。



ソフトクリームを頬張る若い女性を見送られ始める。森閑としての囀り一つしないミズナラの森を上がって行く。登るにつれ落葉松、ダケカンバと樹相が変って行く。途中中学生の団体とすれ違う。若いなあ！我々にもあんな時代があったのだろうか！？そんなことを思いながら、緩やかな階段状の道をしばらく上る。乾燥して爽や



かに感じた空気が中だが、さすが汗ばんでくる。山王峠を過ぎ道を通り、斜面を滑るよう下って行くと、眼下にすり鉢状の広い草原が現れる。涸沼だ。沼といっても水は無く一面の草が風にそよいでいるだけなのだが、ふっと心が洗われるような気がした一瞬だ。小高いところにある広めの展望ベンチで暫し昼の憩い。サラダあり漬物ありフルーツありで、今回の差し入れも盛り沢山。

腹を満たし、シラビソと苔の林を縫うように行くと、エメラルドグリーンな神秘的な佇まいの切込湖が見えた。湖畔に降りてみる。静かだ。平成とは思えない、太古の時に降り立ったような気分、天女でも現れてきそう。形のいい太郎山を見はるかす隣りの刈込湖では思わず撮影大会に。共に水深15mで、互いに繋がり山王帽子山・於呂俱羅山・三岳などの山懐に抱かれている。



湖を後にすると、コメツガが自然のまま残るごつ岩場に出る。そして木の階段。少しの間急登が続くがやがて小峠へ出る。あとは緩い下りを行くだけ。蓼ノ湖を右に見て間もなく金精道路へ出た。硫黄の強烈な臭いの中、湯元温泉へ到着し、ハイキングは無事ゴールとなった。

浴衣に下駄履きの温泉客を見た我々は、ためらいもなく日帰り温泉宿へ一目散。白濁した湯にじっくり浸った後の生ビールは、又格別であった。

帰路は、乗り継ぎ乗り継ぎの長丁場となってしまったが、尽きない話に時を忘れ、それはそれで又楽しい経験だったといい方に解釈できる前向きなこぶし会である！？



(記・遠井 謙策)

(写真提供・涌井良明／伊藤久雄)